

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

平成21年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の子実用作付面積は26万6,200haで、前年産並みとなった。

（表2-1、図2-1）

イ 収穫量

平成21年産4麦の子実用収穫量は85万3,300tで、前年産に比べて24万4,700t（22%）減少した。（表2-1、図2-1）

図2-1 4麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

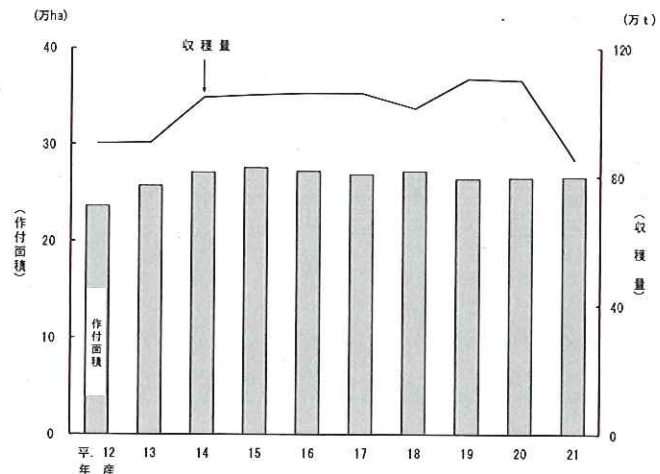


表2-1 平成21年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作付面積		10a 当 たり 収	収 穫 量		10a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
百ha	kg	百t	百ha	%	%	百t	%	%	kg		
全 国	4 麦 計	2 662	...	8 533	8	100	...	△ 2 447	78
	小 麦	2 083	324	6 742	△ 5	100	77	△ 2 070	77	79	412
	二条大麦	360	322	1 158	6	102	79	△ 293	80	91	353
	六条大麦	176	297	522	7	104	90	△ 38	93	96	310
	裸 麦	44	257	112	0	100	69	△ 49	70	82	315
北 海 道	4 麦 計	1 184	...	4 073	5	100	...	△ 1 423	74
	小 麦	1 163	344	4 001	6	101	74	△ 1 414	74	73	474
	二条大麦	22	333	72	△ 0	99	90	△ 9	89	93	360
都 府 県	4 麦 計	1 478	...	4 458	3	100	...	△ 1 032	81
	小 麦	920	298	2 741	△ 11	99	82	△ 656	81	89	333
	二条大麦	338	321	1 086	6	102	78	△ 285	79	91	354
	六条大麦	176	297	522	7	104	90	△ 38	93	96	310
裸 麦	44	257	112	0	100	69	△ 49	70	82	315	

注：1 「(参考) 10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量（過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a当たり収量の比率である（以下の各統計表について同じ。）。

2 六条大麦及び裸麦については、北海道には作付けが無い。

表 2-2 平成21年産 4 麦（子実用）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				裸 麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	(参考) 10 a 当たり平均収量比	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	(参考) 10 a 当たり平均収量比	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	(参考) 10 a 当たり平均収量比	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	(参考) 10 a 当たり平均収量比
	百ha	百t	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%
全 国	2 662	8 533	2 083	324	6 742	79	360	322	1 458	91	176	297	522	96	44	257	112	82
北 海 道	1 184	4 073	1 163	344	4 001	73	22	333	72	93	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	1 478	4 458	920	298	2 741	89	338	321	1 086	91	176	297	522	96	44	257	112	82
東 北	98	236	84	238	200	118	0	350	0	117	14	262	36	89	-	-	-	-
北 陸	96	302	x	174	x	112	0	200	0	160	95	316	300	107	-	-	-	-
関東・東山	410	1 339	228	325	742	89	127	346	439	96	55	281	154	82	x	369	x	102
東 海	151	393	146	261	381	89	x	45	x	30	5	247	12	95	0	400	0	200
近 畿	102	259	92	255	233	97	2	190	4	74	x	275	x	85	x	207	x	72
中 国	42	127	14	266	38	90	25	330	83	89	1	178	2	88	2	225	5	97
四 国	41	100	18	229	41	64	0	288	0	83	-	-	-	-	23	260	59	75
九 州	537	1 703	337	328	1 104	86	184	304	559	88	x	x	x	x	16	253	41	89
沖 縄	0	0	0	152	0	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(2) 解 説

ア 小麦（子実用）

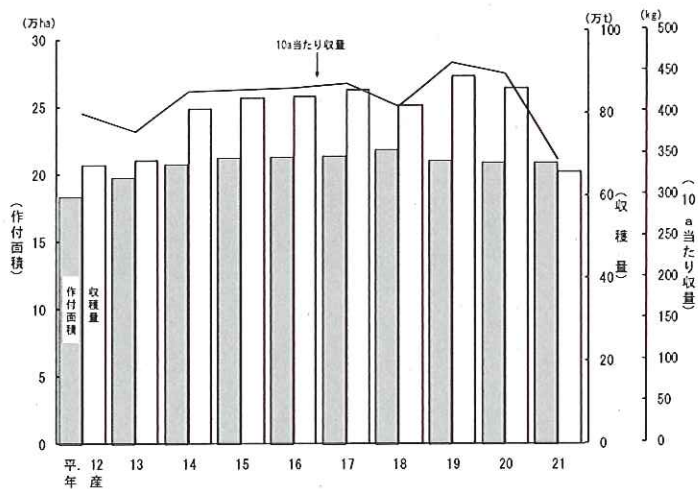
(ア) 作付面積

小麦の作付面積は20万8,300haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は11万6,300haで、他作物からの転換があったことから前年産に比べて600ha（1%）増加した。

一方、都府県は9万2,000haで、九州において、は種期の降雨により作付けができなかったことや二条大麦への転換等があったことから前年産に比べて1,100ha（1%）減少した。（表2-1、2-2、図2-2）

図 2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）



(イ) 10 a 当たり収量

全国平均の10 a 当たり収量は324kgで、前年産に比べて23%下回った。

（表2-1、2-2、図2-2）

a 北海道

10 a 当たり収量は344kgで、前年産に比べて26%下回った。

これは、7月の低温、日照不足及び長雨により登熟の抑制や穂発芽が多発したこと等による。

（表2-1、2-2、図2-3）

b 都府県

10a 当たり収量は298kgで、前年産に比べて18%下回った。

これは、東海、九州地域を中心に、主に年明け以降の降雨により湿害が発生するなど生育が抑制されたこと等による。(表2-1、2-2、図2-4)

(ウ) 収穫量

収穫量は67万4,200 tで、前年産に比べて20万7,000 t (23%) 減少した。

このうち、北海道の収穫量は40万100tで、作付面積は前年産並みであったものの、10a 当たり収量が前年産を26%下回ったため、前年産に比べて14万1,400 t (26%) 減少した。

一方、都府県の収穫量は27万4,100tで、作付面積は前年産に比べ減少したことに加えて、10a 当たり収量が前年産を18%下回ったため、前年産に比べて6万5,600t (19%) 減少した。

(表2-1、2-2、図2-2)

図2-3 平成21年産麦作期間の半旬別気象経過 (帯広)

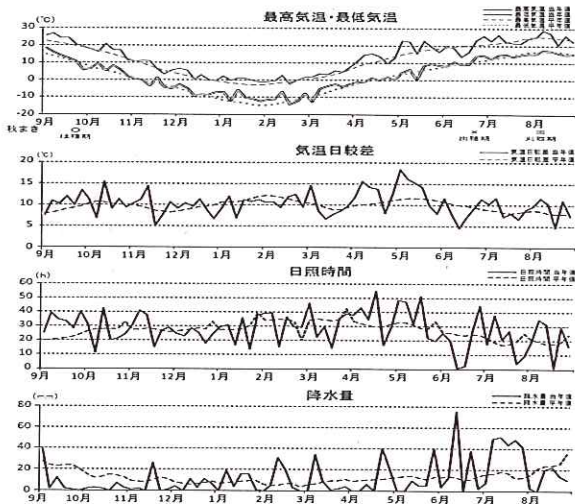
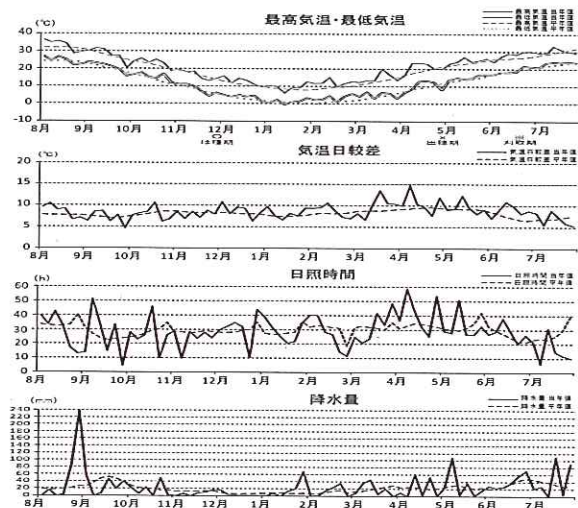


図2-4 平成21年産麦作期間の半旬別気象経過 (名古屋)



イ 二条大麦（子実用）

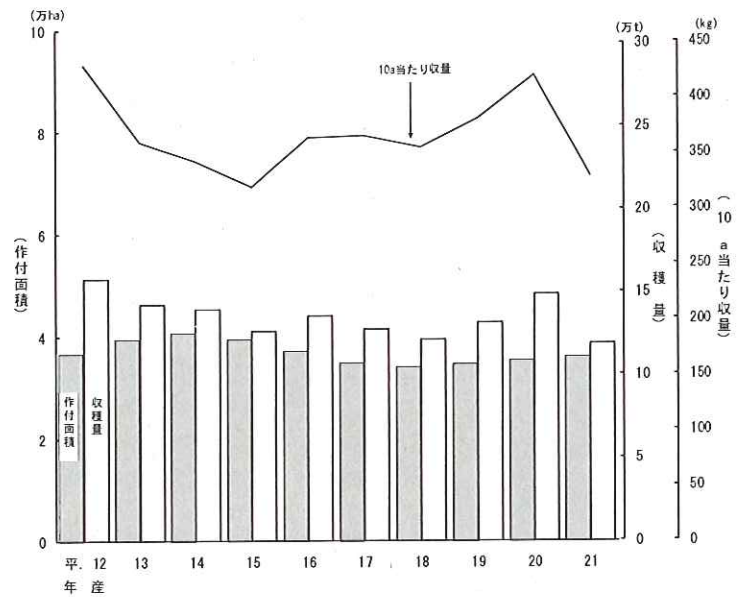
(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万6,000haで、前年産に比べて600ha（2%）増加した。

これは、栃木県等においてビール用等の作付け拡大や、九州において焼酎用の需要が多く、小麦からの転換等があったためである。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は2,150haで前年産に比べて30ha（1%）減少した。都府県は3万3,800haで前年産に比べて600ha（2%）増加した。（表2-1、2-2、図2-5）

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

全国平均の10a 当たり収量は322kgで、前年産に比べて21%下回った。

これは、九州地域を中心に、主に年明け以降の降雨により湿害が発生するなど生育が抑制されたこと等による。（表2-1、2-2、図2-5、2-6、2-7）

(ウ) 収穫量

収穫量は11万5,800tで、前年産に比べて2万9,300t（20%）減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したものの、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。（表2-1、2-2、図2-5）

図2-6 平成21年産麦作期間の半旬別気象経過（福岡）

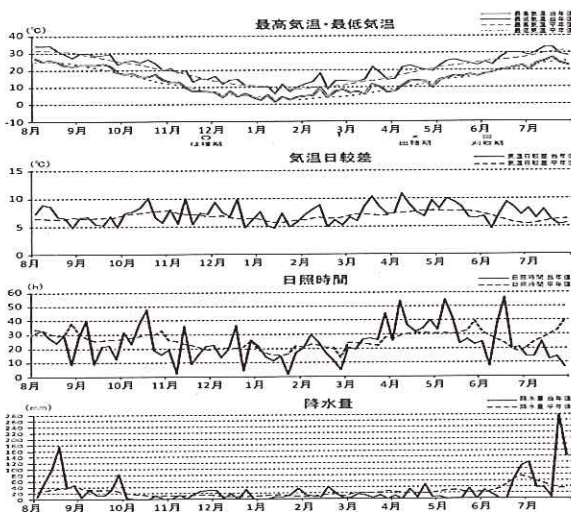
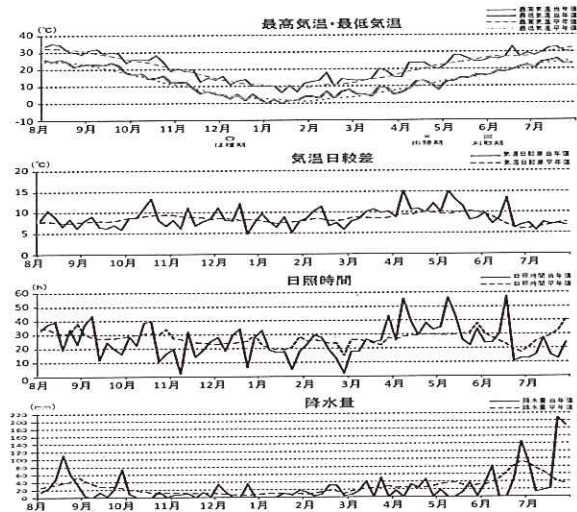


図2-7 平成21年産麦作期間の半旬別気象経過（佐賀）



ウ 六条大麦（子実用）

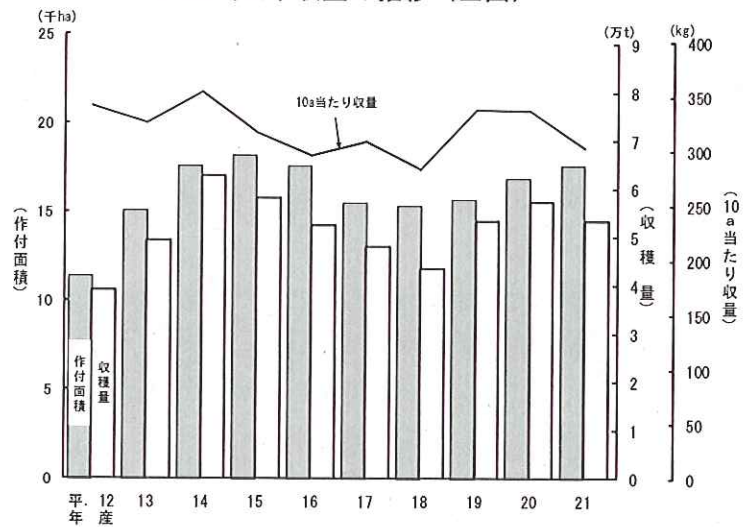
(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万7,600haで、前年産に比べて700ha（4%）増加した。

これは、北陸において国産大麦の需要が増加したこと等による。

（表2-1、2-2、図2-8）

図2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は297kgで、前年産に比べて10%下回った。

これは、宮城県、茨城県等で降雨により湿害が発生するなど生育が抑制されたことに加え、福井県において登熟期の日照がやや少なく登熟が抑制されたこと等による。

（表2-1、2-2、図2-8、2-9、2-10）

(ウ) 収穫量

収穫量は5万2,200tで、前年産に比べて3,800t（7%）減少した。

これは、作付面積は増加したものの、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

（表2-1、2-2、図2-8）

図2-9 平成21年産麦作期間の半月別気象経過（水戸）

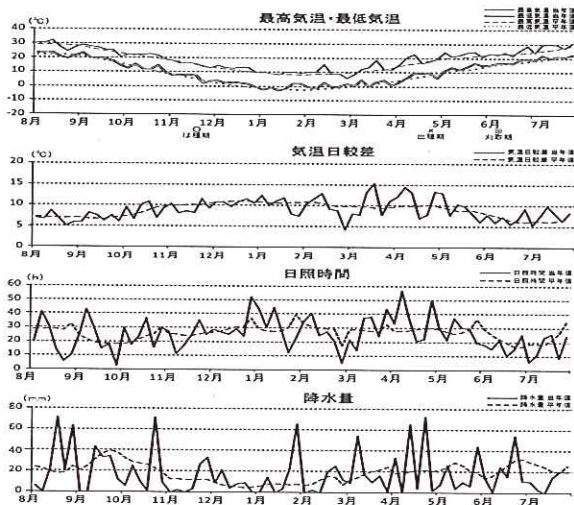
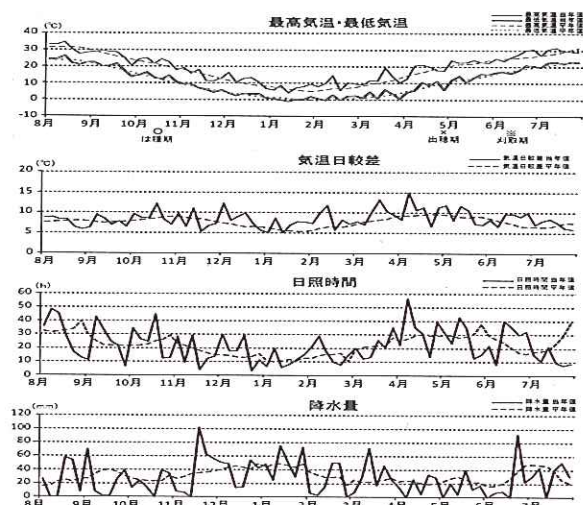


図2-10 平成21年産麦作期間の半月別気象経過（福井）



エ 裸麦（子実用）

(ア) 作付面積

裸麦の作付面積は4,350haで、前年産並みとなった。

（表2-1、2-2、図2-11）

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は257kgで、前年産に比べて31%下回った。

これは、四国、九州地域を中心に、降雨による発芽不良や湿害が発生するなど生育が抑制されたこと等による。（表2-1、2-2、図2-11、2-12）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万1,200tで、前年産に比べて4,900t（30%）減少した。

これは、作付面積は前年産並みであったものの、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

（表2-1、2-2、図2-11）

図2-11 裸麦の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）

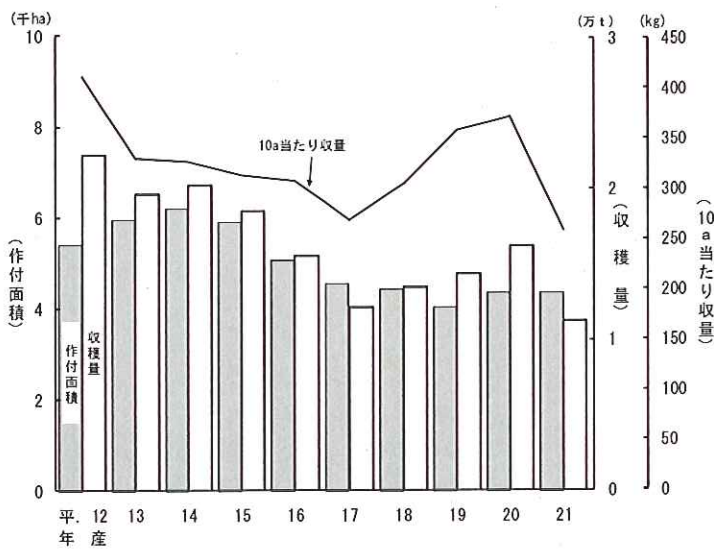
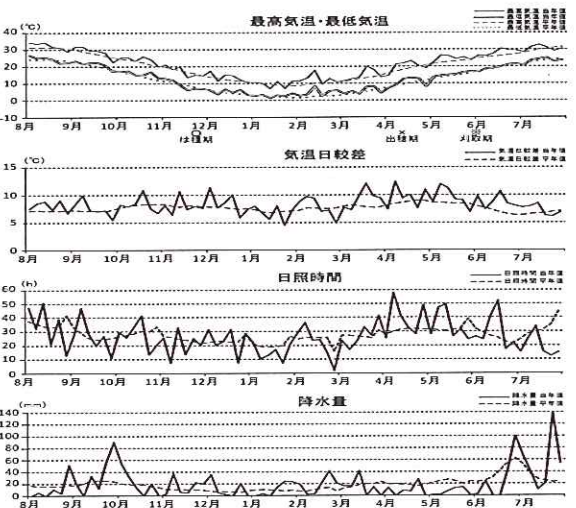


図2-12 平成21年産麦作期間の半月別気象経過（松山）



3 豆 類・そ ば

(1) 要 旨

平成21産の豆類（乾燥子実）の全国の収穫量は、大豆が22万9,900 tで前年産に比べて3万1,800 t（12%）減少し、小豆が5万2,800 tで前年産に比べて1万6,500 t（24%）減少した。いんげんは1万5,900 tで、前年産に比べて8,600 t（35%）減少した。らっかせいは2万300 tで、前年産に比べて900 t（5%）増加した。

なお、主産県における平成21年産そばの収穫量は1万5,300 tであった。（表3）

表3 平成21年産豆類（乾燥子実）（全国）及びそばの作付面積、10a当たり収量及び収穫量（主産県）

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 穫 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平均収量 対 比	10 a 当 たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
大 豆	145 400	158	229 900	△ 1 700	99	89	△ 31 800	88	96	164	
小 豆	31 700	167	52 800	△ 400	99	77	△ 16 500	76	85	196	
い ん げ ん	11 200	142	15 900	300	103	63	△ 8 600	65	65	218	
ら っ か せ い	7 870	258	20 300	△ 200	98	108	900	105	109	236	
そ ば	45 400	△ 1 900	96	
う ち 主 産 県	37 800	40	15 300	△ 2 000	95	60	67	

注：1 小豆、いんげん及びらっかせいの収穫量調査は主産県調査であり、3年周期で全国調査を実施している。平成21年産については全国の都道府県を対象に調査を実施した。

2 そばの収穫量調査は、主産県調査であり、主産県の結果を積み上げた主産県値として集計し、全国値は推計していない。

(2) 解 説

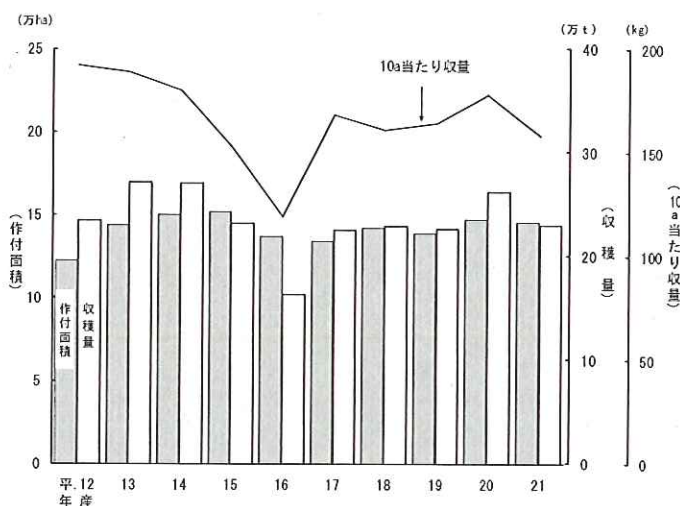
ア 大豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成21年産大豆の作付面積は14万5,400 haで、他作物への転換等があったことから、前年産に比べて1,700ha（1%）減少した。

（表3、図3-1）

図3-1 大豆の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は158kgで、前年産に比べて11%下回った。

これは、北海道において7月中下旬の低温、日照不足及び多雨による湿害が発生したこと等に加え、東海地域を中心とした台風第18号による影響や、九州北部において7月下旬の豪雨による発芽不良等により生育が抑制されたこと等による。(表3、図3-1)

(ロ) 収穫量

収穫量は22万9,900 t で、前年産に比べて3万1,800 t (12%) 減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したことに加えて、10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。(表3、図3-1)

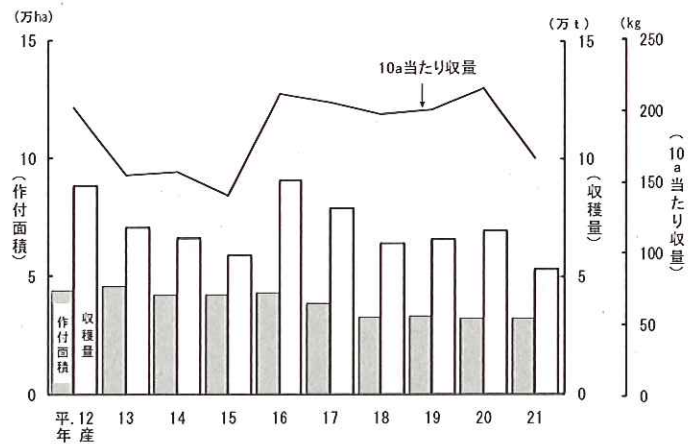
イ 小豆(乾燥子実)

(ア) 作付面積

平成21年産小豆の作付面積は3万1,700 haで、前年産に比べて400ha(1%)減少した。

このうち、全国の約7割を占める北海道の作付面積は2万3,500haで、前年産並みであった。(表3、図3-2)

図3-2 小豆の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移(全国)



(イ) 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は167kgで、前年産に比べて23%下回った。

これは、主産地である北海道において、7月中下旬の低温、日照不足及び多雨による湿害が発生したこと等による。(表3、図3-2)

(ロ) 収穫量

収穫量は5万2,800 t で、前年産に比べて1万6,500 t (24%) 減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したことに加え、10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。(表3、図3-2)

ウ いんげん（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成21年産いんげんの作付面積は1万1,200haで、前年産に比べて300ha（3%）増加した。

このうち、全国の約9割を占める北海道の作付面積は1万200haで、前年産に比べて250ha（3%）増加した。

（表3、図3-3）

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は142kgで、前年産に比べて37%下回った。

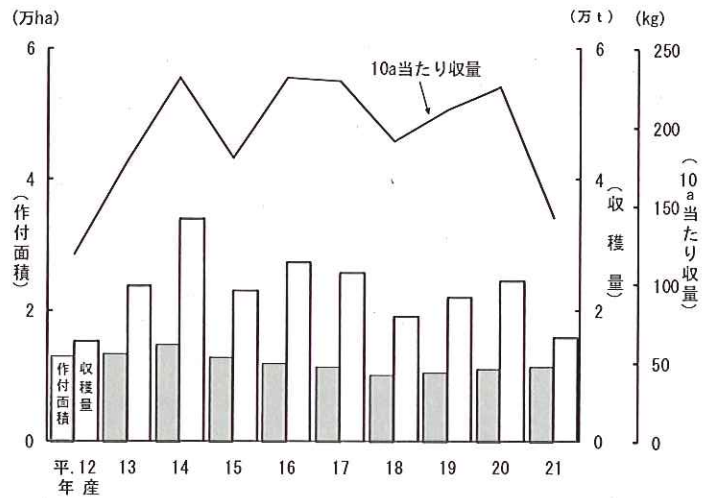
これは、主産地である北海道において、7月中下旬の低温、日照不足及び多雨による湿害が発生したこと等による。（表3、図3-3）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万5,900tで、前年産に比べて8,600t（35%）減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したものの、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。（表3、図3-3）

図3-3 いんげんの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



エ らっかせい（乾燥子実）

(ア) 作付面積

平成21年産らっかせいの作付面積は7,870haで、前年産に比べて200ha（2%）減少した。

このうち、全国の約7割を占める千葉県の前年産に比べて140ha（2%）減少した。

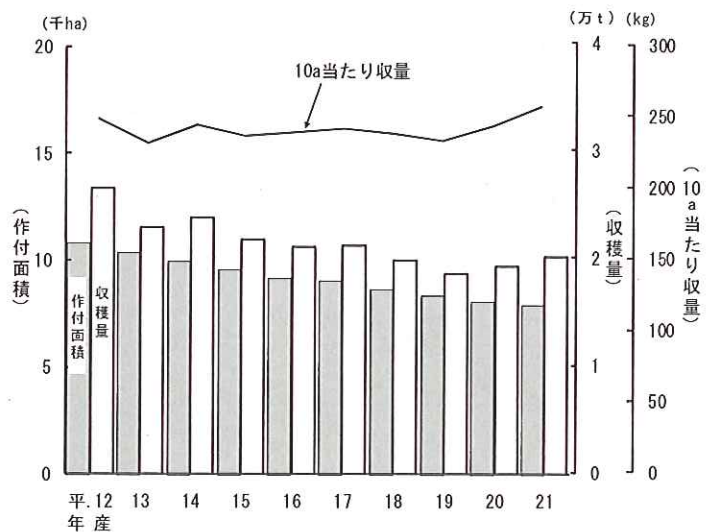
（表3、図3-4）

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は258kgで、前年産に比べて8%上回った。

これは、生育期間を通して、おおむね天候に恵まれ生育が良好であったためである。（表3、図3-4）

図3-4 らっかせいの作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



(ウ) 収穫量

収穫量は2万300 tで、前年に比べて900 t（5%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したものの、10 a 当たり収量が前年産を上回ったためである。（表3、図3-4）

オ そば

(ア) 作付面積（全国）

平成21年産そばの作付面積は4万5,400haで、前年産に比べて1,900ha（4%）減少した。

これは、北海道において他作物への転換等により減少したためである。

このうち、主産県（計）の作付面積は3万7,800haで、前年産に比べて2,000ha（5%）減少した。（表3）

(イ) 10 a 当たり収量（主産県）

主産県における10 a 当たり収量は40kgで、10 a 当たり平均収量対比は60%であった。

これは、北海道において7月中下旬の低温、日照不足及び多雨による湿害が発生したこと等に加え、福島県等において7月下旬から8月上旬の降雨による発芽不良等により生育が抑制されたためである。（表3）

(ウ) 収穫量（主産県）

主産県の収穫量は1万5,300 tとなった。（表3）